

平成22年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ホッケ

学名 *Pleurogrammus azonus*

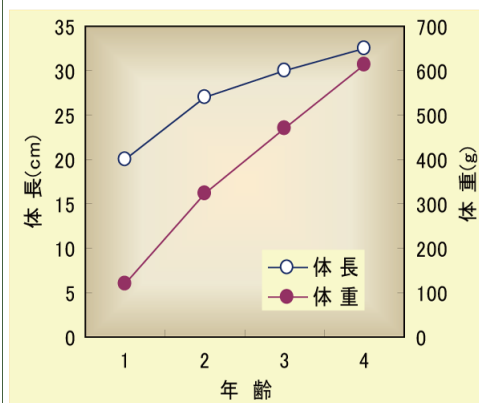
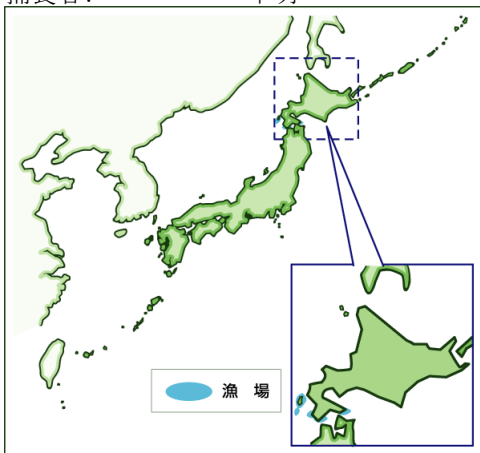
系群名 道南系群

担当水研 北海道区水産研究所



生物学的特性

寿命: 不明
成熟開始年齢: 1歳の終わり(一部)、2歳の終わり(大部分)
産卵期・産卵場: 産卵期は11～12月、産卵場は北海道渡島半島西岸および奥尻島沿岸の岩礁域
索餌期・索餌場: 正確な索餌場は不明、分布域は、北海道渡島半島西岸～本州北部日本海および噴火湾～本州北部太平洋
食性: 仔魚期には主にカイアシ類、未成魚期にはヨコエビ類を多く捕食、岩礁周辺で定着生活に移行後は様々な種類の動物を捕食
捕食者: 不明

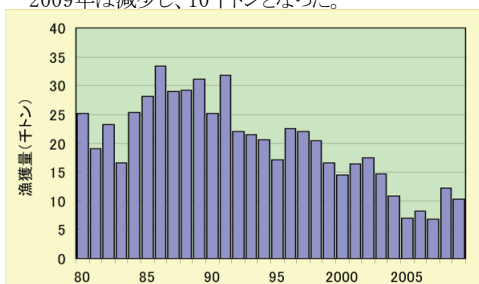


漁業の特徴

ホッケ道南系群は、当該海域の沿岸漁業(本州日本海では沖合底びき網漁業を含む)における主たる漁獲対象魚種の一つである。主に刺し網、定置網、底建網、まき網、釣り、簗などではほぼ周年漁獲され、特に春季の索餌期と秋季の産卵期に漁獲量が増加する。

漁獲の動向

本系群の漁獲量は、1980年代後半に30千トン前後の高い値を示した後、1992年以降20千トン前後まで減少し、2000年代以降も減少傾向は続いた。2007年には7千トンまで減少した後、2008年には12千トンまで増加したが、2009年は減少し、10千トンとなった。



資源評価法

本系群のホッケの漁獲量は、そのほとんどが1歳と2歳であり、年齢幅が狭いためコホート解析による資源量の推定に適していない。また、漁獲の大半は底建網などの沿岸漁業によるものであり、CPUEなどの資源量の指標を得ることが困難である。そこで、漁獲量の変化から資源の動向を判断した。

資源状態

本海域における過去35年間(1975～2009年)の漁獲量の平均値を50とし、35未満を低位、35以上65未満を中位、65以上を高位と設定した。2009年の漁獲量は10,392トンで26となったため、資源水準は低位と判断した。また、過去5年間(2005～2009年)の漁獲量は、2008年以降は1万トンを上回る漁獲量となったものの、連続した増加傾向は認められていないため、横ばいと判断した。



管理方策

漁獲量の変動が資源の動向を反映すると仮定し、過去35年間の漁獲量の平均値から資源の水準を判断した場合、2000年代の大半が低水準であると考えられる。比較的豊度の高い2007年級群と見られる加入によって2008年以降漁獲量が若干回復した。しかしながら、2010年の春季の漁獲量が減少していることから、再び漁獲量が減少する可能性もある。このような状況を踏まえ、過去5年間の平均漁獲量をABC算出のための数値として使用し、ABClimitは、過去5年間の平均漁獲量(Cave5-yr)に0.8を乗じて算出した。ABCtargetは、不確実性を考慮した安全率である0.8を乗じた漁獲量とした。

	2011年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	7,100トン	0.8Cave5-yr	—	—
ABCtarget	5,700トン	0.8・0.8Cave5-yr	—	—

資源評価のまとめ

- 漁獲物の年齢幅がせまく、コホート解析が困難

- CPUEを得ることが困難であるため、近年の漁獲量から資源評価を実施
- 過去35年間の漁獲量の推移から資源の水準を、また過去5年間の漁獲量の変化から動向を判断
- 2003年以降資源水準は低位で推移し、2008年には若干回復したが2009年には再び減少した
- 2010年春季の漁獲量は2009年より減少している(函館水産試験場資料)

管理方策のまとめ

- 漁獲量が低位水準で推移していることを考慮し、漁獲圧の低減を検討する必要がある

執筆者: 森田晶子

資源評価は毎年更新されます。